

ドクトル伊田の「は」ロほどに...



# 新しい抗菌点眼薬の役割

No.61

この度、抗菌点眼薬が発売されました。抗菌点眼の新薬は十数年ぶりのことです。眼科で使う抗菌点眼薬には、殺菌力が強く幅広い種類の菌体に効くことが求められます。その理由は、抗菌点眼が結膜炎や目ばちといった通常の炎症性疾患だけでなく、眼科手術の前後で感染症対策に使う点眼としても非常に重要だからです。現在汎用されているフルオロキノロン点眼は優秀ですが、反面使い過ぎによる薬剤耐性菌の増加が問題になっています。殺菌力の強い優秀な抗菌薬を使っ

織へ移行して、組織内の炎症を抑える作用があります。この抗菌薬の作用を静菌作用といいますが、アジスロマイシン点眼薬にはとくに静菌作用が強いことが分かっています。治りにくい結膜炎や眼瞼炎、涙嚢炎では少なからず耐性菌が関与していると考えられますが、これらに効果が期待できます。ただし、せっかくの新しい抗菌点眼も乱用すれば更なる耐性菌を作ってしまうことになりま。アジスロマイシン点眼は使用日数、一日の使用回数が厳密に決められており、使用の際には薬の特徴をよく理解して使うことが大切です。

て、すべての細菌が死滅することはなく、長期間使用すれば生き延びたことがわずかな菌体(薬剤耐性菌)が増えていき、やがて新たな感染症や炎症遷延の原因となります。今回発売されたマクロライド系のアジスロマイシン点眼薬には、このような現状を打破する役割が期待されます。具体的には、主流で使われる強力な殺菌作用を持つフルオロキノロンをサポートしつつ、耐性菌を作らないようにすることです。マクロライド系抗菌薬の特徴は、抗菌活性とともに感染を起こしている組

織へ移行して、組織内の炎症を抑える作用があります。この抗菌薬の作用を静菌作用といいますが、アジスロマイシン点眼薬にはとくに静菌作用が強いことが分かっています。治りにくい結膜炎や眼瞼炎、涙嚢炎では少なからず耐性菌が関与していると考えられますが、これらに効果が期待できます。ただし、せっかくの新しい抗菌点眼も乱用すれば更なる耐性菌を作ってしまうことになりま。アジスロマイシン点眼は使用日数、一日の使用回数が厳密に決められており、使用の際には薬の特徴をよく理解して使うことが大切です。

(院長・伊田宜史)



## 伊田眼科クリニック

- ・眼科一般
- ・日帰り手術
- ・コンタクトレンズ取り扱い

【休診日】木・土曜午後  
日曜、祝日

TEL 079-556-8600

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:30	○	○	○	○	○	○	△
12:30	○	○	○	○	○	○	△
15:30	○	手術	○	△	△	△	△
18:30							

三田市武庫が丘7-7-4 エムズIIビル1階 <http://www.ida-ganka.com>

